

市長と語る タウンミーティング
テーマ「災害に強いまちづくり」

日 時 平成24年10月15日（月） 午後7時～8時45分
会 場 江川分館（鶴ヶ舞一丁目町会）
天 気 晴れ

参加者 32人

主な意見等（◆・・・参加者 ☆・・・市長）

◆鶴ヶ舞一丁目町会としては、安否確認などの機動は、災害の放送を頼りにしていたが、3.11のときは放送が全然なかった。そのため、我々が動いていいのか分からなかった。放送により、各班が安否確認をしていくことになっているので、防災無線は1番頼りにするインフラだと思う。昨年以上の地震がきても倒れないものを構築してほしい。また、放送がなかったのは停電が原因か。

☆停電ではない。必要はないということで放送しなかった。

◆かなり大きな地震だったので、やはりアナウンスがほしかった。

☆貴重なご意見をいただいたとは思いますが、防災行政無線は、これからはそういう使い方はしない。ここが本当の被災地になったとき、放送を聞いて皆さん動いてくださいといった合図的な使い方はできない。放送は、最新鋭の機器であっても聞きづらい場所がどうしても出てくる。計画停電の際もそうだったが、何を言っているか分からなければそれで不安になる。計画停電までは聞こえたが、実施されますなのか中止になりましたのかが伝わりにくかった。万が一、直下型の地震がきたら放送では落ち着いて行動してくださいくらいしか言えないだろう。市役所が何か発信するのが大事だというご指摘は本当に大事。しかし、放送を流せないこともあるため、必要なくても震度がこのくらいになったらこうしようとか、教訓になったと思う。まずは分館に集まるとか、安否確認に動いてもらうとか地域のルールづくりをしていく必要がある。またご指摘いただいたように直下型の地震がきても崩れないくらいのものを設置していきたい。

◆町会で話し会った中で避難場所として新双葉幼稚園の方がいいという意見が出た。幼稚園とは地区で交流をしていて、園長からは何かあったときは使っただいてけっこうですよとされている。このことを行政には届け出ておいた方がいいのか。そうしないと助けが来ないというのでは困る。

☆今のご意見は1番大事なこと。私もタウンミーティングでこれだけは必ずお伝えしたいと思っている。市内には木造住宅の密集地がある。鶴ヶ舞もそう。鶴ヶ舞一丁目の避難場所は亀久保小。避難場所とは目指して逃げる場所ではない。家が崩れたときの寝る場所がないというときに生活する場所。まず表に出て身近な所で身の安全を確保してほしい。駐車場でも小さな公園でもいい。訓練では道具を取りに行ったりいろいろなことをやるかもしれないが、どんな

被害になるだろう、どうやったらこの地域を守れるだろう、それを皆さんが考えていただくことが1番大事。災害は、発生する時間帯によって想定が変わると言われている。平日なのか、土日なのか、昼間なのか、夜なのか。夜だと停電して、真っ暗な中を避難するのは昼間とは違う。夏なのか、冬なのかでも違う。真冬の夕方まで石油ストーブやファンヒーターがついている。夕飯の支度で煮炊きをしている。いろいろな所で火災が発生するかもしれない。最悪の状態を考えてほしい。いくらお金をかけても完璧なことはできない。火災が亀久保小で発生していたらそちらには逃げないだろう。電信柱が倒れていて、普段通れる所が通れない。それで一斉にみんなが同じ方向に行ってしまうと取り残される所ができる。その人たちを救うために危険を冒す必要はないが、まずは身近な所で身の安全を確保していただく。余震が落ち着いたところで避難場所に避難してもらおう。身近な所と言うと家にいることを考えてしまうが、実際は家にいないかもしれない。夕飯の支度で買い物に行っていたりするかもしれない。いろいろなことが想像できる。夜間だと市の職員も参集してくるのは時間がかかる。昨年、参集訓練で8時に地震が起きたという想定で徒歩、自転車、バイクで自宅から市役所に参集した。12時までには9割来た。有事のときは割合がもっと落ちるだろう。阪神淡路大震災のときは直接の揺れで倒壊したものが多かった。東日本大震災は揺れより津波の被害。この違いは、揺れの周期の違いにあったと言われている。どんな地震がくるかは想像つかないが、地域の人が自分、家族の次にどうやって地域を守っていくか。1番地域を知っている皆さんが考えることが大事。市内では文京学院大学もいざという時敷地に避難していただいて構わないと言ってくれている。大型店とも協定を結んでいて、物資だけでなく、広い場所を避難場所として活用させてもらえることになっている。新双葉幼稚園のようにいざという時の避難場所の確保については進めていただきたい。

- ◆住宅密集地帯の話が出たが、私はこの辺は大丈夫だと思っていた。足立区など耐震化が急務で移転をするということが新聞に載っていた。それも耐震化は公助でなく、自助というような内容だった。この辺でもそういうことはあるのか。
- ☆東京の下町は、この辺以上に密集地。人しか通れない所がある。この辺はそこまではいかないが、インフラの部分では、ガスはマイコンメーターに変わっていて地震がきた場合はガス自体が遮断されたり、電気も停電というより1回ブツンと切ったりする。しかし、消防車両が入れたとしても、大規模災害の時には管内の台数は限られているし、あちこちで火災が起きた時には思ったとおりに動けないかもしれない。また水道管自体がだめになっていたら使えない。市内でも水道管の耐震化は52%くらい。100%になるまでに間に合うかという可能性の問題もある。木造密集地帯でどうやって消火するか。東京の下町では消防車は入れないが、消火栓に直付けし、水圧で水を出す装置を付れたり、街中で開発で民間事業者が付けた簡易消火栓というのがあるが、この辺はどうか。

◆この辺は2か所あると聞いている。

◆まわって見たが、使える所がひとつしかないというような状況だった。開けてみたらホースがぐちゃぐちゃになっていた。

☆使えそうなものはホースを取り替えたり、直付けして消火できるようなしくみとか、有効な方法について現在市で判断している。

◆通報した方が早いということもある。若干の訓練は必要だと思うが、私たちがいざというとき、使いやすいものにしてほしい。

☆消火器でなくても、投げるとガスがポーンと発生して火が消えるようなものを売っていたりする。町会とか連合会でまとめて大量購入してもらおうという方法もある。また、お金のかかることばかりじゃなくて、家具の転倒防止はどれくらいやっているか聞くと、意外とやっていない。転倒防止であればつっぱり棒や壁にビスで取り付ける方法がある。お年寄りでできないということであれば町内会で協力してもらってもいいのではないか。枕元にズックやスリッパを置いておくのも有効。私も置いている。戸が家がゆがんで開かなかったり、ガラスが一面に割れていることもある。それもお金をかけない身近な知恵。阪神淡路大震災の時は、タンスが倒れて、そんなに重くないものであっても、寝てる時はパニックになって体が動かなくなって、動かせないこともある。よくボール1本あれば助かった命と言われる。垂木1本あれば女性でもタンスを持ち上げられる。またガラスの飛散防止シートなどちょっとしたものを工夫するだけでも次に避難するワンステップになる。それを町会で話し合ってもらいたい。災害について、話し合う時間をつくって、一人ひとり意識を高めていただきたい。

◆久喜市では液状化が起きた。この辺の地盤はどうか。

☆地盤についてはいい場所。新河岸川に近い辺り、湿地帯だった場所は若干可能性はあるが、こちらのエリアは心配ない。テレビを見た時、お気付きになる方もいらっしゃるのでは。各地の震度が出たとき、ふじみ野市がない。近隣より0.1くらい低い。市役所の敷地内に震度計があり、そこから埼玉県、気象庁へ瞬時に送られている。上野台一帯には弾薬工場があった。地盤がいいということで作られたのではないかということを感じるのだが、液状化の心配はまずないだろう。

◆久喜市でも自助という話を聞いた。行政ではできないと言われたそう。

☆公的なものを使って個人の財産まではできないというのが実態。

◆亀久保小が改修されるが、図書室をサービスルームとして地域の方にどのように使っていただいたらいいかということで教育委員会から話があり、私たちと話し合いをした。私たちは、地域には江川分館など場所があるから、サービスルームとしては保護者さん方に使っていただいたらいいとお話しした。その他に災害の時には皆さんが集まるので、外トイレ、水まわりを整備してほしいという話が出た。校庭のトイレは男女兼用であるし、災害の時に安心して使えるようにしてほしい。

☆トイレも水が出ればの話にはなる。廃水の問題もある。亀久保小は耐震補強は終わった。来年、再来年かけて大規模改造をやる。これまでは学校にお金をかけてこなかったのが事実。いろいろな経費を削ってかけられるようになった。ピカピカにはしてあげられないが、防水や外壁、トイレなど必要最小限の改造。そのうえで、せつかく改造をするのだから校舎の中に地域の人が普段の活動場所ということだけでなく、子どもたちと触れ合えるような場所がくれたらというのが私の願い。例えば石川県には、自由に出入りできるお年寄りのサロンのような場所が校舎の1階にある。休み時間に、核家族でおじいちゃんおばあちゃんがいない子どもたちが遊びに来たりする。有事の時は校舎全体が避難場所として使ってもらえるように、少しでも拠点を増やしていきたい。

◆私たちは、お子さんが授業でやらないような、お作法とか、講師の方をお迎えて教養を高めるようなものはどうだろうかということをご提案させていただきました。市長の今のお話を聞いて、教育委員会からお話をいただいたのはそういうことだったのだと分かった。結局トイレのことを強調してしまった。

☆今のお子さんたちは洋式トイレしか使わずに育ってきているので、なるべく学校も合わせていきたい。いずれはエアコンも整備していかなければならないだろう。私は、個人的には学校には本来はエアコンはいらんないと思っているが、昔と比べて今は36、7℃、校舎内は40℃を超えてしまうような日もある。私が就任してから空気の流れをつくるため、扇風機をつけた。真夏に教室を視察した。教室によって温度が違うのだが、子どもたちはけっこう元気だった。先生の方がへとへとになっていた。とはいえ、子どもたちにとってきついのは事実。養護教諭にエアコンの必要性を聞いたところ、いらんないと思うと言っていた。日本も亜熱帯化している。成長期にある子どもたちが対応する体をつくれなくなるためだということだった。快適な空間はつくれないが、28℃くらいに落とすことは必要だろうと思っている。小中学校は19校あるため、それをやっていくことはかなりの費用負担。急激に児童が増えた時期があり、つくだけでせいっぱいだった。本当なら定期的にメンテナンスをしていかなければならないが、それすらできなかった時代があった。ようやくここで耐震補強が終わるので最低限、これから育っていく子どもたちのために雨漏りしないように、またトイレを直してあげたい。

市民と協働のまちづくりと言うが、これは市役所ができないことを皆さんにやってもらうのではない。皆さんが、私たちができるからわざわざ税金を使って市役所がやらなくても私たちがこの道を掃除するよといったようなこと。先程の自助の話。自分の家を守るため、転倒防止の器具を買おうとか、消火剤を買うのに町会単位で買おうとかやっていた。私たちができることは私たちがやるから市役所はもっとやることを考えなさいと言っていた。市民も市役所もそれぞれが主体。それがこれからふじみ野市を良くしていく秘訣だろう。私の親は、食べるものに不自由したから、私に不自由はさせないと親に言われて育ってきたのだが、そういったことを次の世代に伝えていくことが必要では

ないかと思っている。震災を受けてどうやって地域を守っていくかを子どもたちに見せていくことが災害に強いまちづくりにつながっていく。鶴ヶ舞の特性で、この道だけは確保しなきゃいけないということと一緒に考えていきたい。

◆震度7の地震がきたら学校も崩れるだろう。経験者でも分からない。まずは自分の身を守るしかない。人のことはできない。

☆学校は震度7くらいだったら崩れないだろう。ただし、耐震補強すれば絶対に崩れないわけではない。一気に崩れないだけ。地盤が悪かったら建物ごと倒れる可能性もある。

◆ふじみ野市は地盤もいいし、水の心配もないからいいが、最近は竜巻が多い。竜巻はどうか。地形的にはどうか。

☆気象庁の方で竜巻については竜巻ナウキャストという予報を出している。竜巻の危険度（発生確度）に1と2というランクがある。1の場合は確率度が非常に低いため、竜巻の場合は地震と違い、短時間でぽっと発生してぽっと消えたり、大きくなる時も短時間。このため、対応が非常に困難。まずインターネット上の情報など意識してもらいたい。具体的な対応はマニュアル化はしていない。地形的にはアメリカのように大きな平面が続くような所。ふじみ野市にはない。2になったら防災行政無線で流すということは決めてはいる。

ゲリラ豪雨も昔はなかった。1時間に50ミリくらいの雨を想定して雨水管はつくられている。昔想定していた雨量より全然多くなっている。先日も台風で1時間に100ミリなど、自然の現象はかつてなかったようなものになっている。竜巻、竜巻と言って逆に不安をあおってしまうこともある。慎重にする必要がある。